

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 飛田 恵美子

論 文 題 目

Diagnostic Performance of Endocytoscopy for Esophageal Eosinophilia

(食道好酸球増多に対する超拡大内視鏡の診断能)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委員 小寺 泰弘  
名古屋大学教授

委員 江畑 智希  
名古屋大学教授

委員 内田 広夫  
名古屋大学教授

指導教授 川嶋 啓揮

## 論文審査の結果の要旨

今回、好酸球性食道炎 (EoE) 患者における超拡大内視鏡 (EC) の食道好酸球増多 (EE) に対する診断能を評価した。EoE に特徴的な内視鏡所見と病理学的所見を有した患者に対して EC 観察を行い、33 例 194 画像を検討対象とした。既報に基づいて新たに作成した EC-EE 所見 3 項目を用いて各画像を評価した。2 名の内視鏡医 (検査施行医 1 名、共同研究者 1 名) による読影では、正診率 76.3%、感度 87.6%であり、EC-EE 陽性群の 1 高倍率視野 (HPF) 当たりの最大好酸球数は陰性群と比較して有意に高値であった。EC 経験のない 4 名の内視鏡医による観察者間一致率は、EC-EE 所見のうち 2 葉核について  $\kappa$  係数 0.653 と良好であった。この結果、EC の EE 診断能は良好であり、EoE を疑う患者における標的生検に有用である可能性が示唆された。

本研究結果に対し、以下の点を議論した。

1. EC では観察範囲が食道表層に限られるため、EC-EE での項目 III の 2 葉核の所見は表層上皮への好酸球浸潤や好酸球性微小膿瘍を反映していると推測される。今回の検討対象について 1HPF 当たりの最大好酸球数は、得られた検体標本全体で評価しており、EC で観察可能な深度までに存在する好酸球数については追加検討が必要である。EoE 患者では、EE 以外にも基底層の著明な肥厚、細胞間隙開大、固有層の線維化がしばしば観察されるが、EC 観察所見でそれらを間接的に評価できるのかについても今後の課題と考えている。

2. 既報では食道扁平上皮癌における EC 観察時には、デジタルズームを併用した場合に診断率が向上すると報告がある。2 葉核の周囲には膜状の非染色領域を有するため視認されやすく、今回の研究では 520 倍程度の倍率でも良好な正診率が得られたが、デジタルズームの併用がその向上に寄与する可能性がある。また、今回の研究では EC 経験のない内視鏡医の方が感度は低かった。その原因として 2 葉核の形態や分布にバリエーションが存在した可能性があり、EC-EE 所見の改良も考慮される。

3. 既報によると通常光観察における EE 検出のための単回生検の感度は 55-63% と高くはないため、最低 6 ヶ所の生検が推奨されている。今回の研究結果から、EC 観察を追加することで EE 検出率が高まることが示唆され、内視鏡上級医においては必要生検個数を削減できる可能性がある。即時に評価できることや、生検を行わない領域の病理情報が得られるメリットもある。また今後の追加検討を要するが、EC-EE の項目 I および II により、EC 観察可能な深度よりもより深層の活動性を間接的に評価できる可能性があり、将来的に治療後評価にも応用できると考えられる。

本研究は、食道好酸球増多に対する高精度な狙撃生検法を確立する上で、重要な知見を提供した。

以上、適正な議論がなされたことにより、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	飛 田 恵 美 子
試験担当者	主査 小寺 泰弘		副査: 江畑 智希	
	副査: 内田 広夫		指導教授 川嶋 啓揮	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. EC観察所見と生検病理標本での好酸球浸潤深度について</li><li>2. 項目Ⅲ所見による正診率を向上させるための考案について</li><li>3. 内視鏡上級医におけるEC観察の必要性について</li></ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				